

### 「本当のオリンピック」 3 菊組 M. W

みなさんは、ソチオリンピックをテレビで見ましたか？私は見ました。日本の沢山の選手が活躍していて、どれにも感動の物語がありました。しかし、その裏には私たちが知らなくてはならないことが沢山ありました。

オリンピックの開催地となったソチでは、テロや紛争が近くで起こり、厳戒態勢の敷かれた危険な地、と言えるようなところでした。そこでオリンピックが開かれたのです。

1972 ミュンヘンオリンピックで、イスラエル選手団がイスラム武装闘争組織に襲撃されたことがあったそうです。私は、オリンピックの歴史にこんな悲しいことがあったことを知り、驚きました。「テロとの戦争」下での 2004 年のアテネオリンピック以来、オリンピック会場はテロに備えてミサイルまで配備することになっているそうです。そこまで「武装」しないと「平和の祭典」はできなくなっているということです。

なぜオリンピックが「テロ」の標的となるのでしょうか。イスラム武装闘争組織による襲撃事件の頃は、無視された災厄に世界の注目を集めるためと言われたそうですが、今は違います。これほどの厳戒下でも威信をかけて行うというのは逆に、オリンピックが「何の問題もなく平和な領域にある」ことを力づくで示すイベントになっています。さらに裏返せば、「平和の祭典」があるところに必ず押し潰すべき「見えない敵」がいるということになります。また 2020 年に予定されている日本の東京オリンピックの場合には、それは汚染の拡大を続ける「フクシマ」であり、安倍政権の下で高まりつつある国内の政治的軋轢だということです。国内だけでなく、日韓・日中などの領土問題があり、また安倍総理の靖国参拝などが上げられます。

メディアの報道は、厳戒態勢に守られた競技場の中にしか目が向けられていませんでした。そこでは競技に打ち込む選手たちが大写しになり、彼らの感動的な物語がクローズアップされます。それでも、ときに報道がこの「平和」の囲いの外に出ていかざるをえない時があると思います。ソチの会場の外の厳戒態勢と同様、日本のテレビカメラの視野の外に置かれています。私は、ただ競技場の中を見るだけではなく、外にあるものにも視野を広げなければならないと思いました。

日本で初めてのオリンピックというと、戦後復興、経済発展の象徴として 1964 年に開催された東京オリンピックを思い浮かべる人も多いと思いますが、実はそれよりさらに遡ること 24 年前の 1940 年に開催されるはずだったのです。国際オリンピック委員会で決定し、開催の準備が進められたものの、日中戦争の影響などから、日本政府が開催を返上し、日本は戦争へと突入していきました。この時代の進み方は現代の状況と似ていると思いました。当時の流れは、関東大震災が発生、治安維持法の制定、日中戦争の勃発、東京オリンピックの中止、太平洋戦争が開戦しています。現代も同じように東日本大震災が発生し、秘密保護法の制定、そして 2020 年には東京オリンピックが予定されています。その当時と同じような時代の流れです。現代に生きる私たちは過去の反省を活かし、2020 年に迎える

東京オリンピックを本当の意味で「平和の祭典」として開催できるのでしょうか。そのためには何を知り、どのように考え、いかに判断・行動していけばよいのでしょうか。

また、今回の冬季オリンピックの開催地となったソチは、はじめに話したようにとてもリスクの高い地域です。世界最大の陸地面積を誇り、寒冷地には事欠かない広大なロシアの中、何故ソチでオリンピックが開かれたのでしょうか。それは、プーチン大統領の思惑があります。テロが起きるその地で、プーチン大統領の力によって戒厳体制がひかれることで、危険な地が、オリンピックを開催できるほど安全な地になる、そのような力を国内外に見せつけることが目的だったと言われていました。プーチン大統領のテロ対策の一環として、オリンピックの為に導入された戒厳態勢はそのまま解除されない状態が維持されているとも言われています。

平和な地でオリンピックを開催するのか、オリンピックを開催するからその地は平和になるのか、皆さんはどう思いますか。確かに、安全な地でオリンピックは開催されます。日本は世界で例を見ない安全な地ですから、東京オリンピックは安全な地で開かれるわけです。しかしソチの例のように、国の力によって安全な地を作り上げることで、オリンピックを行える、その地は、オリンピックを開くために安全な地になったと言えると、私は思います。